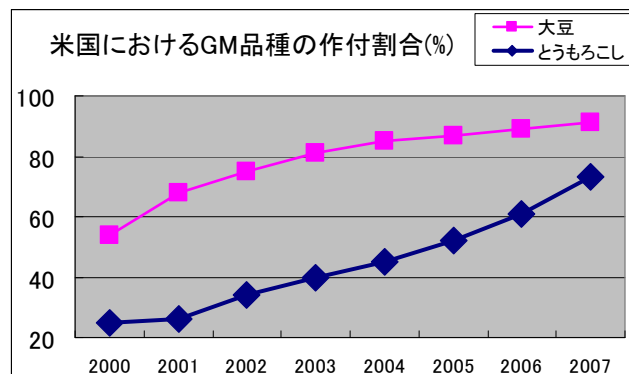


未審査の遺伝子組換え飼料に関するリスク管理措置の見直し

平成20年6月11日
農林水産省 消費・安全局
畜水産安全管理課

遺伝子組換え作物の作付状況

- ◆ 遺伝子組換え (GM) 作物の栽培は、世界的に増加傾向
- ◆ 飼料の主原料の主たる輸出国である米国では、GM作物の割合がとうもろこしで7割、大豆で9割まで増加



(USDA economic research service <http://www.ers.usda.gov/Data/BiotechCrops/>)

未審査GM飼料の混入問題

- ◆ GM作物の普及に伴い、安全性未審査のGM飼料の微量混入問題も発生
- ◆ 今回のDAS 59132 (DAS32) で3例目

【未審査GM飼料の混入事例】

2000年 スターリンク
2005年 Bt10
2008年 DAS32

2

未審査GM飼料に関連して これまで得られた主な知見

いずれの未審査GM飼料についても、

1. 家畜の健康上の影響が懸念されるようなタンパク質を産生した事例、あるいは混入による健康影響の報告はない。
2. 混入割合はさほど高くなく、かつ、その混入割合も経時的に低下している、あるいは、低下していくことが確実と見込まれている。

3

GM飼料一般に関して得られた科学的知見

1. GM作物に導入されたDNAやそれによって発現するたん白質は、家畜の体内で分解される。
2. GM飼料を摂取した家畜由来の畜産物から、そのようなDNAやたん白質が検出されないことが、多くの試験で示されている。

(出典:「遺伝子組換え飼料を摂取した家畜の肉、乳、卵における組換えDNA及びたん白質の動態に関する欧州食品安全機関の科学的アドバイス」)

詳細は次のサイトを参照

http://www.s.affrc.go.jp/docs/anzenka/html/colum9/category_a/topics_080311b.htm

3. 当省で行った遺伝子組換えトウモロコシの家畜給与試験で、当該家畜由来の畜産物から、給与された組換え体の遺伝子やたん白質が検出された事例はない。

4

安全上の問題が生じる可能性

これまで得られた以上の知見から、混入が起きた三つの未審査GM飼料によって、飼料としての安全上の問題(有害畜産物を生産、あるいは家畜等への健康被害)が生じる可能性は極めて低いものと考えられる。

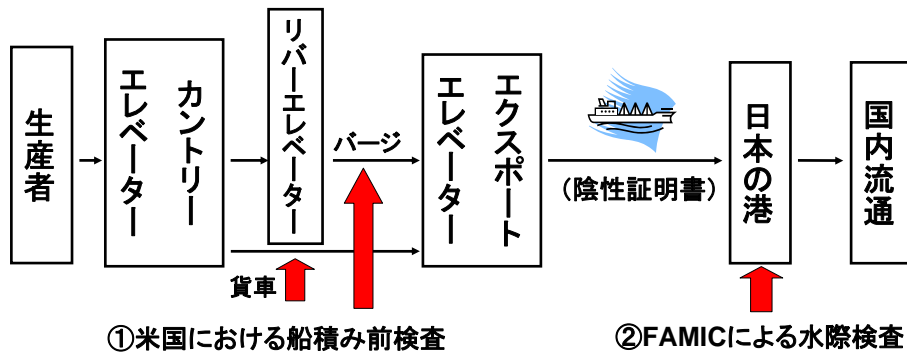
5

未審査GM飼料に関するリスク管理措置

これまでのいずれの事例においても、

- ①米国における船積み前検査
- ②FAMICによる日本での水際検査

を合わせて実施。



今後の検討課題(その1)

- ◆ 米国における船積み前検査によって、未審査GM作物が検出されず、陰性証明書が添付されている荷については、FAMICの検査を行わない方向で検討したらどうか。
- ◆ ただし、船積み前検査が適切に行われることを担保するため、米国における検査方法や検査機関の資格要件については、一定の要件を課す方向で検討すべきではないか。

今後の検討課題(その2)

- ◆ リスクが十分に低減したと認められる場合については、米国における船積み前検査についても中止する方向で検討したらどうか。
- ◆ また、リスクが十分低減したかを判断するため、
 - ① 船積み前検査等における陽性率の推移
 - ② 当該GM飼料によるリスクに関する科学的知見等を踏まえ、専門家の意見を聴きながら一定の基準を定める。

8